



## 戦後七〇年に思う

いつにもまして暑い日が続くこの夏。今年  
戦後七〇年にあたる。折しも安保法制をめぐって国会周辺  
では反対デモが繰り広げられ、憲法、平和、そして国家論  
等をめぐって激しい議論が展開されている。この一四日に  
は安倍談話が発表されたが、中国、韓国との歴史認識の溝  
は深い。そもそも加害者側が被害者側の意識を十分に理解  
すること自体がかなわないようにも思う▼戦中・戦後史を  
考えるにあたって欠かせない一人が鶴見俊輔であるが、こ  
の七月二四日にこの世を去った。鶴見は「you are wrong」  
ではなく、「I am wrong」を出発点とした▼その鶴見と小  
田実による『オリジンから考える』(岩波書店)を読ん  
だ。この中の小田実の『世直し大観』と題する論文に次の  
ような一節がある。「誰にとっても一番大事なことは、平  
和な社会の中で生きるということです。『大きな人間』は  
戦争を引き起こす力を持っているけれども、『小さな人間』  
はそのような力を持っていない。しかし『大きな人間』は  
『小さな人間』と一緒に動かない限り戦争はできない。ひ  
とりでは戦えない。すると『小さな人間』は、戦争を阻止  
する力を、やめさせる力を持っていると思うのです」▼憲  
法や国家論を大所高所から考えるだけでは空中戦に陥りが  
ちだ。まずはおのれの身にとって、そしておのれの家族、  
おのれの地域にとってどうであるのか、具体的に考える作  
業が欠かせない。戦争もTPPもきれいな論理だけではと  
らえきれない。身体感覚、感情も含めて現実をとらえてい  
くことが必要だ。

(土着菌)